



號六十第聞新育教

日一十月八年一十治明

雜報

西班牙の部

(前号の續)

歐羅巴旅案内

質ス

小學書學教授法ヲ

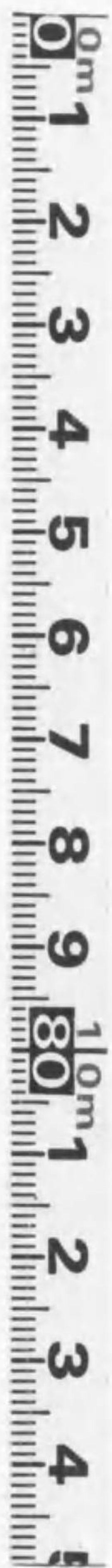
書ヲ視ルノ感

支那大學校

スルノ論

教育ト實地ト背馳

目次



始









ナシトセス教師父兄モ亦以テ非トセス只少年ニシテ既ニ平氏ノ專横ヲ説  
キ三代ノ善惡ヲ講スルヲ以テ心竊ニ之ヲ愛シ益徳通シテ以テ十歳能ク漢  
文ヲ草シ十二歳既ニ古詩ヲ賦スルニ至ル教育者夫レ之ヲ以テ彼ノ川柳点  
ノ調津ヲ免ル、トスルヤ否  
蓋シ此ノ弊タル其由來スル處ニ考フルニ一ニシテ足ヲサルヘシト雖ヒ我  
輩ノ暫ク考フル處ニ據レハ日本今日ノ教育方ハ突如トシテ歐米ヲ生擒シ  
來レルノ致スル處ニ非サルナキヲ得ンヤ  
今小學ニ用キル處ノ教育ハ固有ノ物少ナク其原ハ皆多ク米國ニ發シタル  
モノニシテ其讀本ハ之ヲ井ルソソ氏ノリードルコ取リ掛畫ハキルソソ氏  
及ヒカルキソソ氏ノチヤイトニ出テ算術書ハ何ニ出テ地理ハ何ト皆日本ハ  
民ノ目ニ慣レサル處ノ外國ノモノヨリ出テタルヲ以テ人々遂ニ之ヲ以テ  
珍奇ノモノトシ隨テ教育モ亦外國ヨリ來レルモノ、如ク考フルヲ以テ渾  
テ新奇ヲ知リ或ハ信屈放牙ノ文ヲ讀ムチ一ニ之ヲ學問ナリ學者ナリト思  
ヘルヨリ馴致シテ遂ニ少年知力ノ度外ノリテナクテ教育ノ能ク至レルモ  
ノト誤認セシニ非サルナキ耶  
今此ノ弊ヲ除却セシト欲シテ千思万考スルニ他ナキカ如シ其教具ノ如キ  
ハ皆之ヲ改良シテ日本固ニニシテ尤日常ニ親密ナルモノヲ擇ミ人ノ思想

セル珍奇ヲ以テ學問トセル處ノ誤見ヲ破リ教育ハ人間生活ノ道路ヲ示シ  
處ノ標本タルヲ知ラシメバ恐ラクハ之ヲ既ニ東ハルニ回スノ日アラソク歎  
然ラスンハ日本全國ニ唐様ヲ以テ賣据ト書クニ至ラン  
對話術  
談話ノ一ナル交際上ニ於テ尤緊要ナル思想ノ媒介物タルヲ以テ亦他ノ學  
問ノ如ク一般ノ定則ヲ設ケテ以テ之ヲ修メサル可ラス而ルニ我日本ニ於  
テ學者ノ未タ此ノ學ニ論及スルモノアルヲ見サルノミナラス却テ之ヲ緊  
要ナリトスルモ、少ナシ頃日ハート氏ノ著ハス處、學者ノ量見違ト題ガ  
ル小冊子ヲ友人某氏ノ譯スル處ニ就テ左ノ一篇ヲ掲ケ以テ看客ニ告ク  
學者ノ量見違第六章ニ曰ク前條ニ關シテ爰ニ對話ノ風ヲ練磨スヘキヲ論  
サシ對話ヲ能クスル者ハ世ニ言フ能辨者ト價ヲ同シフスト云ヘハ餘リ誇  
大ノ言ト思フモノアルヘシト雖ヒ決シテ然ラス能辨トハ著シク人目ニ顯  
ハル、才能故蔑視ス可ラスト雖ヒ余カ經驗ニ依レハ人間ノ大切ナル動作  
ハ能辨ニアラス、テ重モニ對話ニ屬シ或ハ爭論ノ本トナリ或ハ嫌惡セラ  
ル、等大ニ此ノ術ノ爲ス處ナリ古ヨリ行法官ノ對話術ニ長シテ名ヲ揚ケ  
タル者少クナカラス精密微細ヲ要スル大切ノ事件ヲ眞實ニ決着セントス  
ル時ニ當テ衆人ニ向ヒ喋々演說スルモ大ニ用ヲナサズ相共ニ顔ト顔ト



見合シ手近ク談合シテ始メテ眞ノ極所ニ達スルヲ得ヘシ世俗ノ口碑ニ彼ノ有名ナル「アローン・フール」ハ對話術ニ於テ少シモ欠點ナク性質潔白ニシテ實ニ驚ク可キ才能ヲ以テ大統領トナリ他人ヲシテ悉トク我意ノ如クナラシメ人ヲ使用スルニ能ク其任ニ適セシメタルハ恰モ魔術ヲ行ナフ者ノ如シト云フ是レ對話術ノ完全ナルニ依レリ「ブール」ノ如キ者ハ史乘ニ於テ比類ナシト云フ可シ「コレリツジ」サム、デモンソソノノ兩人ハ能辨者ナレト眞ノ對話者ト言ヒ難シ對話ノ重ナル主義ハ人ニ向テ演說スルコアラ共ニ談話シ其人ヲシテ思想ヲ吐カシメ又明カニ我カ意見ヲ述フルニアリ對話面陳ノ才アリ且交際ニ馴レタル者ハ人ノ嫌疑ヲ受ケス彼ヲシテ能ク我ヲ悟ラシメ我モ亦精シク彼ヲ理解シ人ヲシテ我思想ノ如クナラシムルヲ得ベシ

斯ノ如キ交際上ノ大事件ニ限ラズ對話ニ熟シタル者ハ通常日用ニ大益アリ怯懦者ヲ勵マシテ勢ヲ添ヘ沈着謙遜シテ弱ヲ助ケ強ヲ宥テ實ニ小車ヲ運轉スルニ似タリ加之交際ヲ擴メ常ニ爭論スルヲナク欣然トシテ此ノ人ヲ悦フニ至ル

相對シテ談話スル時明亮ナルノ旨トシテ決シテ多言虛飾ヲ要セス辨才アル者ハ獨リ喋々昏々人ヲ以テ口ヲ開カサラシメ我カ所長ヲ以テ彼ニ恐懼

ヲ抱カシムレバ各人之ガ爲メニ沈黙シテ大ニ興ヲ失ナフナリ故ニ我カ名聲才能ノ如何程ニ彼ニ長シ彼又如何ニ我ニ劣ルモ互ニ平心靜意ヲ以テ思想ヲ交換スヘシ對話ニ精巧ナラムトスルニハ卓識智量ナカル可ラズ先ツ種々ノ學課ニ熟達シ時ト地トヲ論セズ自在ニ之ヲ活用セハ温和ナル主意ヲ變シテ嚴肅トシ書上ノ事理ヲ活物ニ適用シ丁寧懇懇ノ談ヲ轉シテ俄ニ人ヲシテ喜怒哀樂ノ感動ヲ起サシムル等ハ皆對話ノ長スル處ナリ

如何ニ學力アルモ才幹ナクシテ人ニ對シテ談話スルヲ得ス又交際上ニ少シモ益ヲナサハル者ハ敗庫ニ種々ノ雜物ヲ積ミ置クト何ソ異ナラム如シ此ノ破壊シタル家具什器タリ或ハ之ヲ日々晒シ蛛網ヲ除キ塵埃ヲ拂ヒ日用ニ供スルアラバ必ス大ニ用ウヘキアラソ通常ノ談話ニハ成ルタケ我カ智識ヲ見ハサス人ノ拙ヲ藏シ講述スルノ風ヲ止メテ質素沈着ヲ旨トスヘシ勿論他人ニ卓越シタル才能試量アルモ之ヲ濫蓄シテ誇大倨傲ノ語ヲ吐カス聽者ヲシテ安易樂只ノ念ヲ起サシメ勉メスシテ大ニ佳興ヲ添フルヲ主トス

對話術ニ就テ往々了簡違スルモノ多シ女子相集テ共ニ「シヤベ」或ハ笑ヒ或ハ戲レ其聲實ニ活潑ナレバ此ノ快樂ノ遊戲ヲ見ル者ハ思ハス自ラ興ヲ催ス「ア」アリ余モ又此ノ無害ナル遊戲ヲ賤シメス之ヲ觀或ハ聽クヲ愉快ナリト



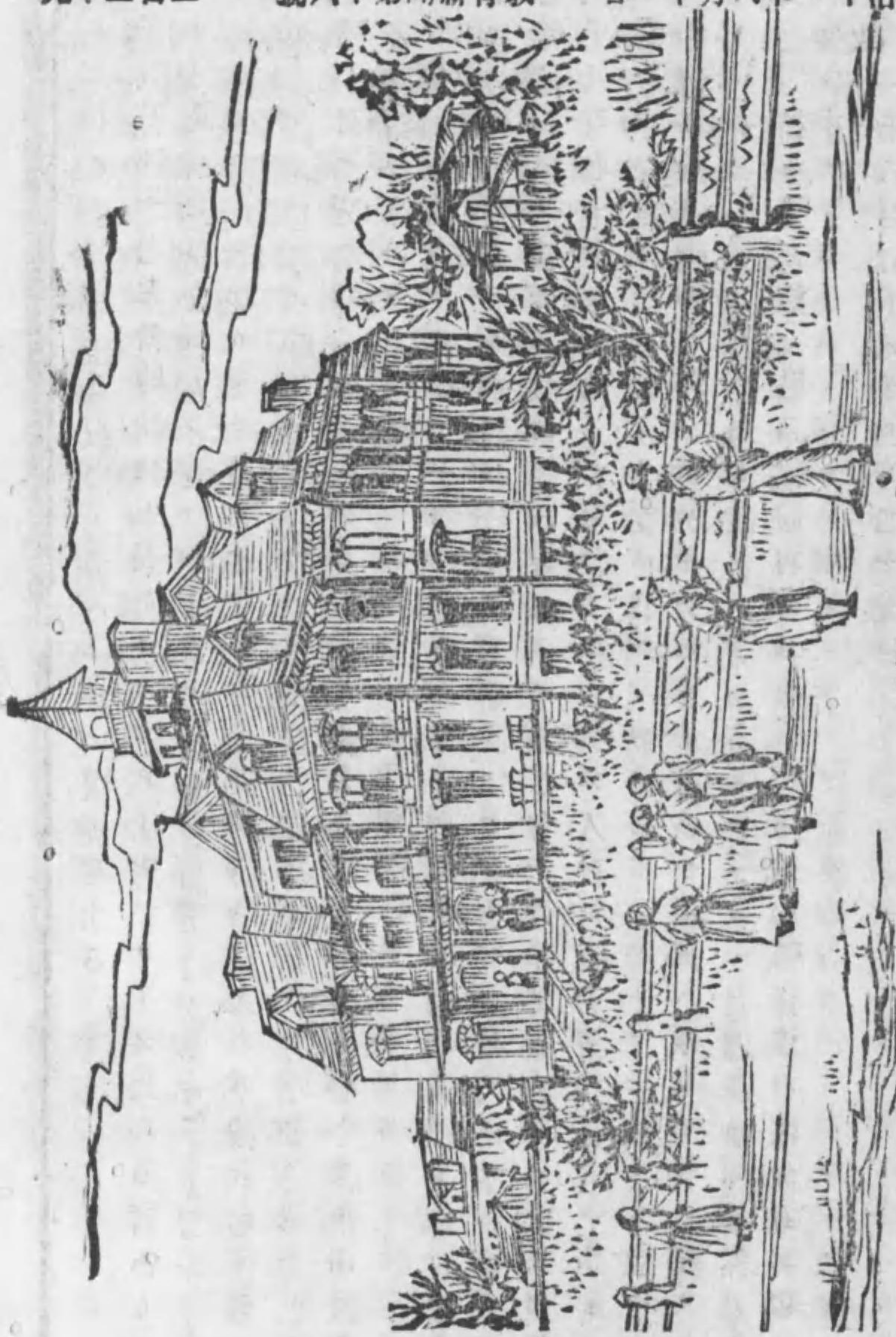
思へトモ能ク耳ヲ澄マシ心ヲ留メテ聽クキハ此ノ中ニ於テ一モ對ト稱ス  
へキモソナシ假令ハイヤ今日を御死けんよろしう皆々様も御換りあう誠  
又御目出度そんト上げます又今日といやあお天氣を御座りますあふたれ  
御のぶりのもの誠お恰好も色も當時流行の品あてあなたお能くお似合  
さりまゝい何きあてお求めあさりまゝのナド、イヘル言ハ甚艶美ナレ  
モ真ノ對話ト言ヒ難シ是等ノ追從輕薄ナル多言ハ畢竟害アレハ益ナク動  
モスレハ其座ニアル我カ面知リノ人ノミコ談話シテ他客ヲ顧リミ人又他  
人ノ善惡ノ噂サコテ誹謗カマシキ言ニ渉ルハ世ニ珍ラシカラサルナリ  
又或ハ政事談ノミヲ蝶々論スル者アリ或ハ己ガ所長ノミヲ辨シ少シモ他  
事ニ留心セサル者アリ然レモ如何ナル對話ニテモ其旨意ニ關スル處ニ連  
絡スルヤウニ心掛クベシ  
願クハ此ノ一点ニ關シテ少シク冗言ヲ費スチ答ムル勿シ我國(米國)ノ博識  
者中ニモ對話術ノ要用ヲ顧ミサルモノ少ナカラズ人ト交接スルヲ貴要ナ  
ル事トセス徒ラニ己ガ藝術學業ノミヲ頼ムテ位置或ハ職業ヲ求メムトス  
ルハ大ニ誤ル所ナリ對話術ヲ鍊磨スル等ノ如キハ夢ニタモ之ヲ思ハス其  
利益緊要ナルヲ知ラフ衆人相集ルヲアレハ恰モ人ニ質問ヲ受ケシ如ク  
「借リ我長シタルヲノミテ演へ他人ヲシテ皆一時口ヲ閉チシノ座中シラケ

テ興チ失ナハシムルモノナルカ故ニ若シ此ノ僻アルモノハ勉メテ之ヲ避  
ケサル可ラズ又友人ト親シク談話スルトキ我カ發言スヘキ順序ニ至レハ  
前ニモ言ヘル如ク誇リテ答人ノ興チ妨クルヲ勿レ世ノ學士ヨ對話ニ長ス  
ルヲチ輕ンセズ是チ己カ職分ノ一部ト思フヘ固ヨリ對話ハ一個ノ術ナ  
ルカ故ニ研究シテ長シ得ヘキ者ナリ又勉強ノ功ヲ顯ハス者ハ對話術ヨリ  
著シキナシ

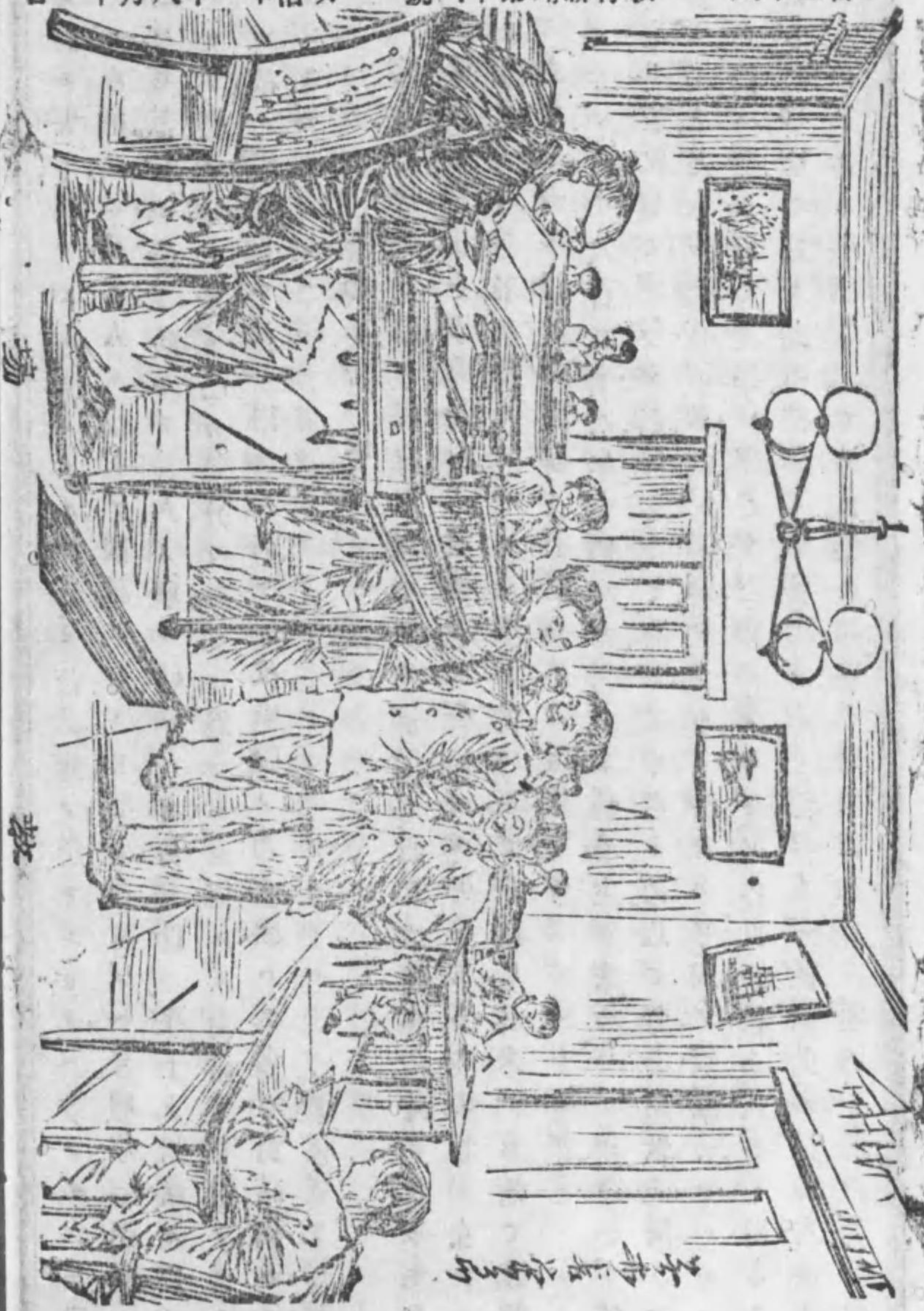
支那大學校

世人之常ニ支那を輕侮し以て奴隸根性と脱せざるものとをれども其  
豪傑を輩出せるを見れむ又決して輕侮すへからざる者の如し左の一  
篇之方今有名なる「ヤンキン」氏の畧傳にして畫圖を其米國ニ於て建設  
せたる大學校の畧圖あり看官請ム辨髮奴お一着ノ輪をる勿と  
「ヤンキン」ハ千八百二十八年支那南方瑪港ニ於て生る家極めて貧賤あり然  
れども其父曾て意らく我兒をして英語と學むべし以て芳を萬世ニ流さ  
むべしと乃ち支那在留米國傳教師「ロハルトモリソン」氏ノ設立シタル「モリ  
ソン」校ニ昇り以て英學と學ぶむ初め「ヤンキン」の此の校ニ入るを得るお  
當りてや恰も好し此の校移リテ瑪港ニあり然れども後又此の校の香港ニ  
移るの舉あり不幸として遂に共に移るを得ず爾來日夜勉勵學問の進歩駁





大。學。校。



場。教。

字。新。報。刊



駿手として是の時已身教師と或の一步と譲る母至る  
一千八百四十七年當時該校々長レウ、ニス、アール、ブローン氏ある者あり「ヤ  
ンキ」及び其學友一人と率ひて其本國亞米利加に歸き是より「ヤンキ」  
の學益々進ミ終ミコン子クチカット「洲」に於て如斯盛大の學校と起シ名を  
海外お轟のし芳と萬世に流し以て父の意に背かざるの嗚呼豈母盛かす  
や然り而て又左の一編ハ「ヤンキ」より或人母送りし書にし其の中該大  
學校建築費等の事と記載せしものあれば是母抄譯す  
一筆啓上仕候陳へ去る二十四日付の御書拜見仕候其砌早速御返辭可仕候  
處殊の外多忙めて大御無沙汰千萬奉謝候借て當支那大學校建築費等大畧  
尊覽母奉供候當大學校の義へ去る一千八百七十六年より建築相肇め翌年  
一千八百七十七年ニ全く效を終り申候其の入費ハ五方五千圓にて「コル  
ン」町に申す處に設立致候生徒ハ我が邦の人にて年齢十二三歳より二十二  
三歳迄母御座候監事ハ「キユウ、コウ、リヤン」君おて教師ハ「ヤン、キ、チ、ニ  
君」及び「リウ、キ、ツ」君の兩人譯官ハ「クワン、キ、ツ、チヨウ」君等ハ御座候然して  
又生徒等の皆を能く勉強仕候右ハ其の大畧ハ御座候委細ハ後便母可申述  
候頓首謹言  
一千八百七十八年四月二十九日

「コン子クヤウツト、洲」ハ「アト、ホルド」ハ於て  
「ヤンキ」

高槻校 九拜

書ヲ視ルノ感 横山角造投

教育新聞第十四号ノ書ヲ熟視スルニ素ヨリ樵童牧兒ノ能ク解ス所ニア  
ラズト雖モ所謂一考百年ニ益スト由テ其推考スル所ヲ以テ記シテ以テ貴  
社ニ寄ス抑モ其畫タルヤ一紙ヲ斜形ニ等分ス其一ハ淡墨色ニシテ其暗中  
ニ數多ノ兒童アリ其舉動ヲ想ヒ見ルニ恰モ喧々然トシテ蹂躪スルカ如シ  
又他ノ一分ハ更ニ分明ニシテ此ニモ數多ノ少年アリ肅々然トシテ容儀正  
シク而シテ各書籍ヲ携ヘ其暗中ニ臨ミ或ハ冷笑シ或ハ私語スルカ如シ想フ  
ニ其暗中ニアルモノハ無學ノ少年ニシテ分明中ニアルモノハ必ズ教育ヲ  
受クルノ少年ナラン然リ而シテ其暗ノ間ニアリテ少年ヲ拉スルモノハ蓋  
シテ教師ナラン而シテ其右手ニ兒童ヲ携ヘ之ヲ明中ニ擲ツハ即チ之ヲ鞭撻  
シテ教育ノ点ニ進マシタルノ謂ナラン是ニ因テ之ヲ見レハ一時ノ痛楚ヲ  
忍フモ能ク教師ノ鞭撻拉捉ニ堪ユルトキハ早晚明中ニ立ツノトキアルノ  
寓意ナテサルヲ得ンヤ

小學書學教授法ヲ質ス 伊藤慈成



聞ク古昔支那南宗ノ畫一タヒ我朝ニ舶來セシヨリ或ハ狩野家トナリ或ハ  
 土佐家トナリ澆季ニ暨ンテ終ニ原質ヲ失シ其畫キタル圖ト畫カレタル現  
 物トハ全ク異体別物トナルニ到リシト然リ而シテ方今文運ノ壯盛ナルニ隨  
 ヒ畫法大ニ進ニ加旃ナラズ油繪等ヲ發明シ萬物ヲ摸寫シテ原物ニ秋毫ノ  
 差違ナキニ至レリ圖畫ノ効徳モ亦偉ナル哉世人ノ未ダ晴眠ニ觸レザル海  
 内外ノ地形山川草木花果ヨリ禽獸魚鼈蟲介ノ類ニ至リ文字ノ能ク書盡ス  
 可カラズ言語ノ能ク名狀ス可カラザル所ヲ摸寫シ一目粲然宛モ眞形實物  
 ナリ視ルガ如ク山村僻邑ノ樵夫漁者ト雖モ萬國ノ地形物體ヲ坐視シ昔時ノ  
 事物異風ヲ今日ニ徵セシムルガ如キ此レ即チ繪畫ノ百工術學ニ最モ須要  
 ナル所以ナリ

獨乙教育論ニ曰ク百工學ヲ學ブニ最モ緊要ニシテ廣大ナルモノハ算數及  
 ビ圖畫ノ學ナリト又文明ナル普國ニ於テモ都鄙ノ別ナク每校必ズ繪畫ノ  
 教科ヲ設置セリ畫學ニ熱心スルコト如此於茲乎當縣下ニ於テモ下等小學  
 ヨリシテ此學科ヲ置キ每堂必ズ之ヲ教授セリ(他縣ニ於テモ亦然カラシ)然  
 ト雖モ其法方ノ如キ未ダ確定セザルヲ以テ教授方甚ダ麁粗ニシテ日用實  
 際ノ使用ニ適セズ唯教畫ノ名稱アルノミト云フモ強ヒテ誣言ニ非ザルベ  
 シ古哲曰ク効ニ〇〇〇不レ得陷爲ニ〇〇〇〇〇〇所謂刻レ虎不レ成又類レ狗也ト思ハザル

可ラザルナリ

吾輩輒近二三校ノ畫科教授ノ現況ヲ目撃スルニ其授業法タルヤ夫ノ畫法  
 楷梯ヨリ拔キ取り之ヲ「ボルト」ニ直寫シテ七級生ハ之ヲ描ケ五級生ハ彼ヲ  
 畫ケト云フノニニシテ此ノ圖ハ此處ヨリ筆ヲ起シ彼處ニ點ヲ加ヘ何處ニ  
 テ終ル等ノ方法ヲ示サズ又或ハ一日ニ數題ヲ學バシムルアリ或ハ毎日異  
 圖ヲ示スアリ故ニ一圖トシテ練習シテ清書スルアルコトナシ特ニ畫用紙  
 紙 如キハ絶テ之ヲ用サルモノナシ現況業己ニ如斯美結果ヲ得ルハ果シ  
 テ何レノ日ニアルヤチ知ル能ハズ

夫レ然リ然ト雖モ之ガ源因ヲ搜索スレバ獨リ教師ノ罪ノミニ歸ス可ラズ  
 何ントナレバソノ之ヲ授クルモノハ多ク舊規度ノモノニシテ到底之レガ  
 陶冶ヲ受ケザレバナリ所謂比丘尼ニ陰莖ヲ出サシムルモノ、如シ夫レ自  
 ラ學バズシテ他人ニ授ケントスル聖人尙能ハズ况ヤ凡庸ニ於テチヤ故ニ  
 教師ノ教授法ヲ知ラザル無理ナラザルニ似タリ嗚呼如何シテ可ナラン教  
 ヘント欲スルモ其方法ヲ知ラズ強テ授クルモ畜ニ生徒ノ精神ヲ勞スル而  
 己ニシテ到底无益ニ屬ス梨ヲ畫テ桃ニ類スル如キヨリ寧ロ教ヘザルノ勝  
 レルニ如カン然ト雖モ畫學ノ缺ベカラザルハ前ニ陳述セシ如ク百工術學  
 ニ關係有バ之ヲ教ザルニ忍ズ江湖ノ教育家以テ如何トナス高論ヲ賜ヘ



歐羅巴旅案内

西班牙の部

前号ノ續キ

諸西班牙乃闘牛之世に知られたる奇事あて都會ともいふへき人烟稠密さ  
 處にて何れも此の闘牛場の設けあらざるふし其場の有様を圖るに四方に  
 持ありて其中央に牛の闘ふ場を設け四方に觀欄と架へざるを恰も相撲  
 の場に鬘髻たゞ諸其當日に至りては老若男女ひしめき合我先にと競へる  
 雜沓言ふとかりあり牛の又其力のあまり猛勢あるとき人の傷け痛むる  
 の恐れあるともて始めより鐵杖にて殆んど疲る、また捷ち懲りてより其  
 場に引出すともて通例とせり其牛と闘ふ力士を駿き馬に打乗り手に長や  
 りある一條の槍と携へ我一の功名せんと各勇と鼓して扣へて居れり時將  
 に來り一聲の合圖ととも牛の角を振り動かしけんとするをさ  
 させしと力士の右に避左に遁れ徒歩ある力士の手に鐵條のものと以て前  
 に進みて牛を被く其遂速ふる飛鳥も及ぬ身のこふしに見るもの酔へる  
 の如く又醒むるに似たり斯くて過ちて牛に馬とのけられざるを死に再び  
 別の馬とかへて牛に當るにそ或人馬諸共牛の爲めに空しく闘牛場  
 の露と消ゆるいさまめつらし死にことにはあらず  
 勝負久しく見へさるど死に騎馬武者之手も明晃々たる刀と提げ躍り出る

や否や牛の又此の方に向ひて角と振り立て一莖試むと馳せよるをひら  
 りどかどか牛の顔と一と打に切り落さぬるや満場の觀客の喝采の聲を  
 止めず一場之の爲め震動せり斯くするも牛の直ちに死にさらず猶蟲の  
 息の通ふとありあるを手荒れも場の外面に引き出しろの死にさるまで  
 あちらへ引きまちらへ引き其猛惡ある言ふに忍びす此の事の終るや否や  
 一聲の喇叭と共に再び驃馬と引き來り牛の角に綱と結び之をして引去ら  
 しむ時によりて一場の闘牛に六頭を殺せることあり(以下次号)

雜報

○東京の内外教育新報の過日も雜報に出した通り愈去る二日金曜日より  
 体裁が改まり立派な雜誌にありましむ且理問題の如きと生徒さんには有  
 益と存します  
 ○どういふ譯の前号にも出した當地和泉町の培根學校の何かと教師さん  
 と急に分離して其教師さんの元官立の大坂師範學校にて當今森學校の教  
 場と假りて別小學校と開きたるより尤培根學校が潰れ譯てのあく只精  
 神のあくあつたとのふとあるかどうか分りません  
 ○大坂府下第八大區四小區島下郡西の庄村の舊穢多あれとも中々舊發し  
 て村内に別に寺院を以て學校としたる處明治十年十一月頃開校せざる所



素より戸數も少ふい故生徒の僅の十六人ばかりあるが僅の數月にして七級生か三人も出來たよし尤同區の學童監護人の三並槌太郎氏の盡力の大方ありと伊蘭言高さんより

○此の頃姫路の城南校より統計表と惠送られましたたが同校と兼て盛大の事ハ聞及んで居たか統計表で見ると餘程盛んを校と思おれます現在の就學生が千二百廿七名教員が四十餘名上級の上等の第五級か四人六級の三人八級の十四人又下等の一級か四十四人にて中々此の位の學校と澤山とあるまいといふ評判尤教頭ハ岡村邁先生あるよし

○當地の脚氣の多い事ハ先日も出さか猶昨今道々盛んあるよし御用心

○昨今の何所も暑中休にて諸方の訓導さんや校長さんや當地へ御愉快にお出でなされまそ

○電信の技術生の不足故募集かあつて出願せんと書生さん英語とやらの志より色々頼とあるくよし電信の技術にも電信かいるものゝあらん電信と電信で同極の電氣ハ相衝くと衝に飛はされてハ大變

○郡制の變革あて學校にも改革あるのらそまてハ何も云かといふ

○〇〇〇さん杯かあるそふさか死ぬまでと自分の命さのて改革のある迄勉強してハ損かと或人の咄し何の事たり

# 稟告

讃岐中條澄清譯述

## 代數學教授書卷之一

八月一日ヨリ發賣

此ノ卷ハ代數學ノ旨意諸命名各種記号ノ用法代數式記法正負ノ性質公理等ヲ詳説ス

## 代數學教授書卷之二

近刻

此ノ卷ハ加減乗除及ヒ乘算ノ公積除算ノ公理負指數零累乗等ヲ詳説シ就中加減乗除正負ノ變化ハ最モ深切ニ解セリ

神戸相生橋東詰 鳩居堂

大坂心齋橋通 松村九兵衛

東京大傳馬町 東生龜次郎

西京寺町四條 田中治兵衛

但シ卷ノ一六月中發兌ト本紙ヲ以テ廣告致候得共彫刻遅引ニ付廣告期限ニ後レ不都合不少謹テ五待兼中ナレハ精々至急ニ發兌可仕候間偏ニ御愛顧是祈ル

花紋 學校用墨汁 各種  
賞牌 上製墨汁

右ハ岡本則録天野皎ノ兩君大坂官立師範學校在勤中墨ヲ磨ルコトノ迂遠ニシテ冗贅ナル時ヲ費シ且ツ教場ノ体裁ノ整頓ヒサルヲ患ヘ多年ノ工夫ヲ以テ新製セラレタル墨汁ニシテ其色澤ハ些モ在來ノ墨ニ異ナラス其學校



用ハ甚廉ニシテ且生徒磨墨ノ勞ナク  
 上製ハ其色温然トシテ却テ唐墨ニ勝  
 ル風致アリ文人墨客ノ多數ノ墨ヲ要  
 スルモノニハ甚便ニシテ且廉ナリ右  
 何レモ無味無毒ニシテ決シテ惡臭ナ  
 シ右ハ大坂西京博覽會ヘモ差出シ置  
 候間御實檢可被下候  
 右ハ一昨年來開店致居稍ク世人ノ實  
 檢ヲ經實益判然致シ從テ賣捌所等澤  
 山取設置候新規賣捌御望ノ方ハ製造  
 本局ヘ御申越被下候ハ、賣捌規則差  
 上可申候

明治十一年三月

大坂府下網島町二番地  
 墨汁製造所本局

齊藤精九郎

社告

東京京橋新町五番地教育社

内外教育新報

一周二号 火曜日 發兌  
 金曜日

一部金四錢〇十部前金三十六錢〇三  
 十部全金一圓〇百部前金三圓二十錢

右弊社ニ於テ賣捌仕候

教育新聞改正定價〇一部三錢五厘五部十  
 四錢十部廿五錢〇府外定價郵稅共ニテ一  
 部四錢五厘五部十九錢十部三十五錢  
 〇發兌日毎月一ノ日ニ付一ヶ月三回

大坂網島町二番地 教育新聞社

假本局 大坂心齋橋筋二丁目四番地  
 賣捌事務取扱所 進取社活版局

編輯兼印刷 天野 皎

終